

# 令和3年度 病害虫発生予察 注意報 第1号

令和3年5月31日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

- 1 対象病害虫 黒星病
- 2 対象作物 ナシ
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 やや多い
- 5 発生量 多い

## 6 発表の根拠

(1) 5月中下旬の巡回調査では、発生圃場率、発病葉率ともに平年より高かった(図1)。

発生圃場率：25.0% (平年：6.0%、前年：6.7%)

発病葉率：1.2% (平年：0.2%、前年：0.3%)

- (2) 振興局からの報告で一部園地では例年よりもやや多い黒星病の発生が確認されている。
- (3) 黒星病は多雨条件で多発しやすく、福岡管区气象台5月27日付け発表の1ヶ月予報では、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

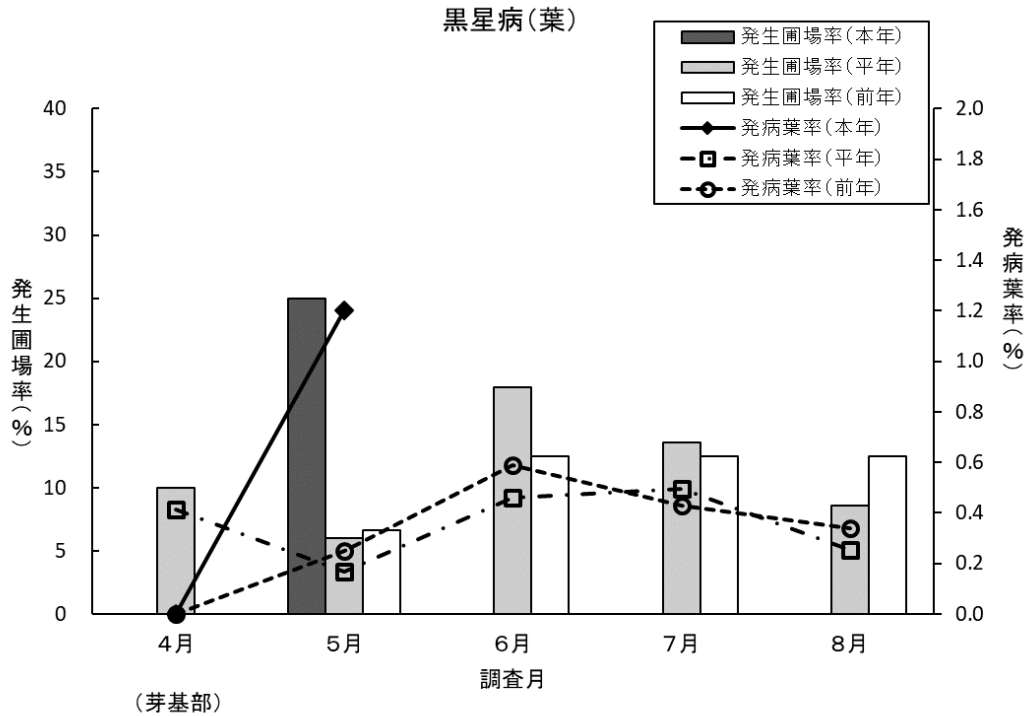


図1 県内ナシにおける黒星病(葉)の発生状況

## 7 防除対策

- (1) 本病は、多雨条件で多発しやすいので、降雨前の予防散布を徹底し、散布間隔があき過ぎないように注意する。
- (2) 罹病した葉・果実は見つけ次第切除し、園外へ持ち出し処分する。
- (3) DMI 系剤は連用すると耐性菌が出現しやすいので、年3回までの使用とする。
- (4) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。中でも同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

（ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita>）

